

2012年3月期 第3四半期決算 IR 説明会ネットカンファレンス(2012/2/1 開催)

質疑応答内容

Q: エネルギー・金属部門の経常利益進捗が通期見通しに対して61%と遅れているようだが、通期見通しは達成できるのか。

A: 石油ならびに石炭関連事業が価格上昇や生産量増加により順調に推移している。一方で、バイオエタノール関連事業と鉄鋼関連事業の業績がやや低調。しかしながら石油および石炭関連事業がこれをカバーし、部門全体としては見通しを達成すると現状みている。

Q: 円高による包括損益の悪化及び繰延税金資産の取り崩しで自己資本が▲500億円程度減少しているが、リスクアセット／自己資本倍率を1倍以内に収めようとしていく場合、投資余力をどのようにみたらよいか。また、来期から新中期経営計画がスタートするが、来期以降の新規投融資についてどのようにみたらよいか。

A: 来期以降も今期と同様に資産の入れ替えを積極的に行い、その入れ替えの金額に見合う部分については積極的な投資を行っていきたいと考えている。

Q: 今期の新規投融資は700億円～800億円を計画しているが、第3四半期までの進捗と計画達成の見通しを教えてください。

A: 第3四半期までに380億円弱を実行。第4四半期で予定しているものの中には、入札等の案件も含まれており、今期における700億円の新規投融資の達成は難しいとみている。

Q: 第3四半期経常利益累計実績が385億円で、通期見通しに対し進捗率が84%と順調に推移しているが、第4四半期での懸念事項を含め、各セグメント別に足元の状況を教えてください。

A: 欧州債務問題が世界経済に及ぼす影響を留意する必要があるが、今現在、海外の事業会社は12月決算もほぼ終了しているという点を踏まえると、欧州経済がよほど悪化しない限りは、4部門ともに大きな下振れ懸念はないと考えている。従い、経常利益460億円は達成するとみている。

Q: 機械部門の自動車事業が好調に推移しているとのことだが、特にベネズエラ、ロシア、タイの現状を教えてください。

A: 機械部門の自動車事業は、ベネズエラ、ロシア、タイ、フィリピンでの事業会社が収益の大きな柱となっており、4社の業績はともに順調である。特にタイについては、心配していた洪水の影響が軽微にとどまり、自動車事業のほか肥料事業も含め、直接的に大きな影響は受けなかった。

Q: ネットDERが2.6倍まで上昇したが、当面のネットDER水準の目標を教えてください。

A: 来期から新中期経営計画がスタートするが、この計画期間中に、収益を積み上げ、自己資本を充実させていくことで、ネットDER2.0倍前後に戻していきたいと考えている。

Q: 今回、税制改正に伴うタックスプランニング等の変更でかなり税金負担が出たが、第4四半期にも引き続き、期初で計画していた通り、繰延税金資産の取り崩しを行う予定か。今回のタックスプランニングの変更も踏まえ、来期以降の税金に関する考え方、実効税率等を教えてください。

A: 現状、当初の予定通り第4四半期で100億円程度の繰延税金資産の取り崩しを検討している。来期以降については、30～40億円程度の取り崩しを行うことになるとみており、実効税率は40%を

割ってくるだろうとみている。

Q: ブラジルのバイオエタノール事業の来期業績をどのようにみたらよいか。

A: 来期からの黒字化を見込んでいたが、天候不順によりサトウキビの圧搾量が想定よりも下回ってくることから、来期の黒字化は非常に厳しいと考えている。

以上